

# 要 望 書

「みらい」の存続と北極域研究船について

青 森 県 む つ 市  
青 森 県 む つ 市 議 会

## 「みらい」の存続と北極域研究船について

むつ市は、北は津軽海峡、南は陸奥湾、西は平館海峡と三方を海に面し、明治35年の海軍水雷団設置以来、軍港として発展し、現在引き継がれている海上自衛隊大湊地方総監部や旧原子力船「むつ」の母港を有するなど、海と生きる「まさかり」の大地に抱かれ、歩みを進めてきました。

貴機構におかれましては、下北ジオパークの発展を図るため、「下北ジオパークに関する包括連携協定」に基づき、科学技術の理解促進と地域振興に御尽力を賜り、感謝を申し上げます。

さて、当市の関根浜港を母港として、1997年に原子力船「むつ」から生まれ変わった海洋地球研究船「みらい」が就航し、国際的にも高い研究成果を挙げていることは、母港の所在地としても大きな誇りとなっております。

当市には、海洋研究開発機構むつ研究所をはじめ、海洋研究等に関する幅広い分野での研究拠点の集積が図られており、新たなまちづくりの指針となる「むつ市総合経営計画」においても、海洋科学研究拠点として研究活動環境の充実を掲げております。

さらに、本年夏に設立予定の「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」への加盟を視野に入れているところであり、世界の海洋を舞台にした貴機構の活動を最大限支援させていただきたいと考えております。

一昨年、新たな北極域研究船の建造に着手するとの報道がありましたが、「みらい」は世界最大級の海洋観測船として無寄港で広域、長期間の航行が可能なことや、荒天時の航行にも優れており、今後

も更なる活躍が期待されますことから「みらい」を存続していただきますよう要望いたします。

仮に、北極域研究船が「みらい」の後継船となる場合には、関根浜港を母港とした原子力船「むつ」からの歴史や、これまでの「みらい」の母港としての実績、加えて海洋研究関連施設が整備されていること等を踏まえ、引き続き当市を母港として、研究活動を展開していただきますよう併せて要望いたします。

平成31年 月 日

むつ市長 宮下 宗一郎

むつ市議会議長 白井 二郎